

ISSN 0910-2396

# 野鳥だより

—北海道—

北海道野鳥だより第186号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成28年12月21日

コウノトリ



2016.10.18 舞鶴遊水地（夕張郡長沼町）

撮影者 中正憲信（札幌市西区）



## もくじ

ウトナイ湖のシマアオジ	
(公財) 日本野鳥の会 元ウトナイ湖サンクチュアリレンジャー	
大畠 孝二	2
シマアオジに想いを寄せて	3
聖なる鳥の島と花の浮島を巡って	
ヨーロッパコマドリ、セグロサバクヒタキなど130種	
東海大学札幌キャンパス3年 今堀 魁人	6
バードウォッチャーズ スケッチブック (最終回)	
札幌市中央区 本間 康裕	9
書籍紹介 「北海道の海鳥」シリーズ1~4 千嶋 淳(著)	
NPO法人エトピリカ基金 片岡 義廣	11
表紙の鳥 (コウノトリ) 札幌市西区 中正 売信	12
探鳥会ほうこく	13
探鳥会あんない	15
鳥民だより	16

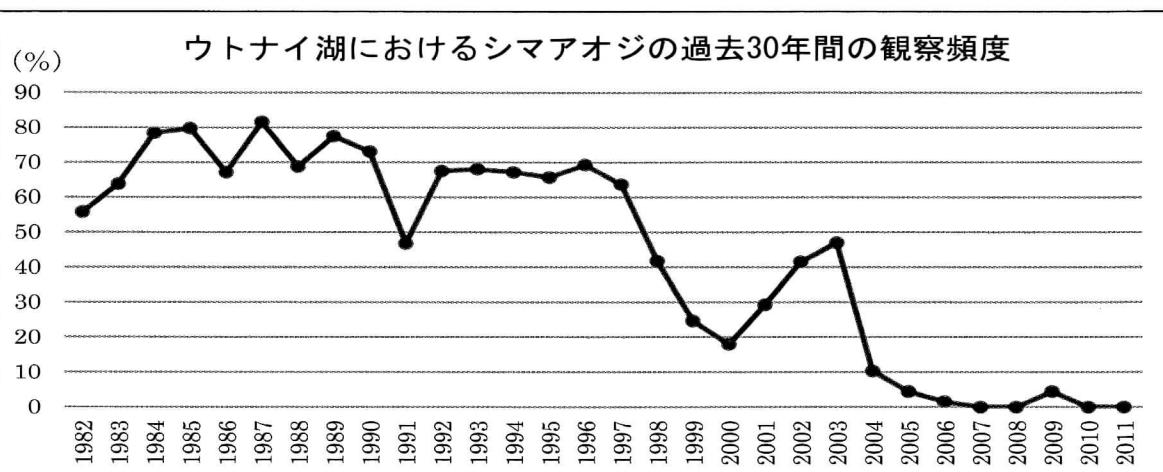
## ウトナイ湖のシマアオジ

(公財) 日本野鳥の会 元ウトナイ湖サンクチュアリレンジャー 大畠 孝二

私が初めてシマアオジに出会ったのは、1979年6月にウトナイ湖で開かれた日本野鳥の会全国大会である。岐阜県生まれの私には、あこがれの鳥だった。あれが、シマアオジの声だと教えていただき、感激したのを覚えている。霧が深く姿は見えなかった。その後、ウトナイ湖のレンジャーとなった1984年当時は、道内一円で普通種として生息していたし、もちろんウトナイ湖でもごく簡単に見られた。1984年6月にネイチャーセンターのある北岸(2.25ha)で調査したところ、雄9羽、雌5羽、2巣を確認することができた。道内では1990年ごろから減少をはじめ、ウトナイ湖では1997年までは観察頻度(確認日数/全日数)が約60%あったが、翌年以降は著しく減少した。7つがいがいた草原では2004年から生息を確認できず、南東部の湿原でも2009年の調査では確認したもののが、以来、記録が途絶えた。この激減は、悪夢のようだ。シマアオジの復活を願うばかりだ。



1983年5月 ウトナイ湖北岸、観察小屋前  
300ミリレンズで撮影、トリミング無。近くで撮影可能だった。



## シマアオジに想いを寄せて

絶滅が危惧されるシマアオジについて、前号（第185号）で読者の皆様の意見や感想を募集したところ、多くの方からシマアオジを心配するお手紙や写真が届きました。

私達にできることは微力ですが、シマアオジ保全のための第一歩を踏み出すため、読者の熱い想いを集めてみました。いつの日か、全道各地でシマアオジが普通種として見られる日が再来することを心から願って、読者の声を掲載させていただきます。投稿していただきました皆様、本当にありがとうございます。（編集部）掲載順不同

### 勇払原野最後の記録？

ウトナイ湖サンクチュアリのアルバイトとして初めて北海道に来た1988年、草原に設置したマイクを通し「ヒヨヒヨヒーヒー」という涼しげな声を毎日ネイチャーセンターで聞くのが、6月の大きな楽しみでした。1993～95年のウトナイ再赴任時は、まだ北岸で観察できました。2005年の3度目の赴任時、北岸の観察路では記録が途絶えていて、南東部の湿原で2羽の雄が鳴いているのみ。そこも2009年が最後でした。

勇払原野のいすゞ南草原では、2002年の調査時、東西2地点で計6羽がいました。2008年に東地点が1羽だけとなり、それが同所の最終記録に。いよいよ最後の砦となつた西地点。2010年から雄1羽のみの確認となり、以降は毎年「今年は来てくれるのか。これが最後かも」との想いで通いました。2013年、ついに一度も確認できずに終了。3ヶ所も最後の確認者となつてしまい、再びあの涼しげな声を聞ける日が来ることを切望しています。

（鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ 原田 修）



勇払原野（いすゞ南草原）での最後の1羽？

※2010～12年の3年間は同一個体と思われる、この雄1羽のみの記録だった。2011.6.11 渡邊智子さん撮影

### シマアオジへの想い

早朝のサロベツ原野、霧の彼方の木道から盛んに手を振っている。“シマアオジが見つかった合図だ”駆け寄るとスコープに鮮やかな黄色が入っていた。隣で仲間の興奮した声が。昨夜、酔った勢いで「明日シマアオジが見られたら死んでもいい」と語った彼だ。喜色満面、死ぬどころではない。営巣していたのだろう、灌木に止まつたり下に降りたりを繰り返し、充分に声も姿も堪能させてくれた。

2012年6月の早朝、15人の仲間とオオジシギも、ツメナガセキレイもアツバメも楽しんだが、わざわざやって来たのはやはりシマアオジ。全員満足してサロベツを後にした。その頃すでにシマアオジは希少な鳥になっていた。

何時の間にか札幌近郊から姿が消え、まさかと思っていたウトナイ湖でも姿が見えなくなった。まず気が付いたのはモエレ沼公園、以前は湿地帯でシマアオジを筆頭に草原の鳥が楽しめる所だった。1979年からゴミの埋め立てが始まり環境は一変し、シマアオジは姿を消した。愛護会の探鳥地、福移も河川敷が灌木のある牧場から牧草地に変わったのは1999年頃か、探鳥会での記録が無くなつた。大麻の線路わきの草地で繁殖していた数つがいが姿を消したのも同じ頃だ。

小さな体で、はるばる海を渡り黄色の胸を張りまるでフルートのように轟くシマアオジ、この声を聞くと北海道の初夏をしみじみ感じたものだ。「野鳥だより」第184号のシンバ・チャン氏の報告はショックだった。極端な減少は世界的に起きていて、それは過剰な捕獲圧が原因と判断され、IUCNがレッドリストの絶滅危惧1B類とした、とのこと。北海道は日本唯一の飛来地、“思い出話”にはしたくない。愛護会も何か復活のお手伝いができないものだろうか。今なら間に合いそうだ。

（札幌市南区 小堀 煌治）

### シマアオジの思い出

私は野鳥愛護会に入会して35年ほどになります。これまでに見てきたシマアオジについて書いてみたいと思います。

シマアオジを観察することができたのは、福移、植苗、東米里の各探鳥会です。この中で、私にとって一番印象深いのは植苗探鳥会のシマアオジです。

さわやかな植苗の草原を歩く探鳥会では、20年近く続けてごく普通にシマアオジを観察することができました。

私はさえずりなど鳥の声を聴くことが好きで、草原の草や灌木に止まって鳴くシマアオジの声を聴くのが、探鳥会の大きな楽しみでした。正に草原のフルート奏者といったシマアオジのきれいな声に聞きほれました。

しかし、残念なことに2003年からこの声が聴かれなくなってしまいました。

植苗の草原も、毎年草丈が高く灌木も多くなってきました。草原を好む鳥達が、年々少なくなっている事が気がかりです。

(札幌市豊平区 戸津 高保)

### シマアオジ雑感

約20年前の1996年7月21日、札幌市東区の石狩川堤防外側、中沼墓地近くの電線にとまっているシマアオジ雄を見ました。個人的探鳥で見たのは初めてのこととあり、記録・記憶に残っています。でも、それまでに愛護会の福移探鳥会ではもちろん、植苗ウトナイ探鳥会でも見ていましたから、その時には特別な興奮はなく、一緒にいた連れ合いと、「シマアオジだね」と話した程度でした。当時、見て特に興奮する鳥という感覚がなかったからだろうと、今になって思います。

野鳥社会では一般的な想像以上に速い個体数減少が、時として起こる可能性があります。シマアオジのように人気のある鳥の場合は多くの人の注目を引きますが、人目を引かないまま同じ道を辿るものがいるかもしれません。自然要因によるものはともかく、人為的要因によるものはできるだけ排除しなければなりません。いつもの鳥が、いつも季節、いつもの場所にいることが何よりのことと思っています。

(札幌市北区 樋口 孝城)

### 私のシマアオジの思い出

札幌市北区上篠路の奥、そこは工場の倉庫が建ち、廃材が無造作に置かれたその裏にわずかに残る草原があった。私が野鳥に興味を持ちだした頃、初夏の休日にはそこを散歩するが日課だった。その日も草原のそばを歩いていると、聞き慣れない爽やかな美しい声に思わず立ち止まった。その声の主が現れて、その美しい色彩の姿に感嘆した。やがて雌と3組のつがいも見つけ、その姿をどの位じっと見つめただろうか。自宅に戻って図鑑を調べ、その鳥が「シマアオジ」という鳥と知った。シマアオジは漢字名で「島青鶲」と表記する。その意味は「北海道のアオジ」で、この鳥が日本では北海道にしか渡って来ない鳥だからとの命名と初めて知り、殊更この鳥に愛着を持った。これが私のシマアオジとの初めての出会いである。そして、その日から毎日、自分の眼で見つめ、あの美しい声の、美しい姿のシマアオジの虜になったのである。しかし、その後、わずかに残る草原もやがて工場の拡大で土砂に埋もれてしまい、シマアオジの姿は2度と見られなくなった。

私のふるさとは礼文島。意外と知られていない野鳥の宝庫。私は春に夏に故郷で鳥を探して歩くようになった。ある夏、久種湖という周囲4kmの小さな湖の湖畔を歩いて、懐かしい声を聞いて驚いた。まさかあのシマアオジが！島に住む弟に聞くと、昔から夏には来ているという。日本の最北の島にもシマアオジは来ていることを知って感

動した。しかし、翌年訪れるとき島内のどこにもシマアオジは見つけられなかった。その後、礼文島でシマアオジを見たのを聞かない。私が野鳥愛護会の探鳥会の担当で案内した東区の福移でも、何時も見られたシマアオジも今はもう見られない。今回、シマアオジの保全に向けて「北海道野鳥だより」で特集することとしたそうですが、「野鳥愛護会」の名の下、他の野鳥の保護活動もお願いしたい。

(札幌市北区 道場 優)

### 続・シマアオジ恋し



2016.6.11 サロベツ湿原 大橋 晃さん撮影

本誌158号に「シマアオジ恋し」という一文を寄稿しましたが、あれから7年、事態はますます深刻です。

Simba Chan氏によれば、シマアオジの激減は日本（北海道）だけでなく、アジア、ヨーロッパを含めた全世界的な傾向とのこと。事は急がれます。日本・中国・ロシア、それに越冬地の東南アジア諸国を含め、研究者（機関）、環境行政などの連携による国際的な対策が急務です。

我々北海道のバードウォッチャーに何ができるか。

繁殖地の環境を悪化させるような乱開発などにストップをかけることは勿論ですが、何といっても玉田克己氏が指摘する「鳥をみて、鳥を守る」ことに尽きるでしょう。

今ではシマアオジを確実に見ることのできる唯一といつてもよいサロベツに毎年6月に行くことを楽しみにしています。最近眼の病気を患い、あと何年鳥見ができるか、という心もとない状態ですが、シマアオジをまた札幌でも見ることができる日が来ることを夢見ています。

(札幌市東区 大橋 晃)

### シマアオジに再び出会える日を願う

「私たちの探鳥会－探鳥会30年の記録－」(2001年 北海道野鳥愛護会)をみると、シマアオジは植苗・ウトナイ探鳥会では11年間('89-99)で92.6%の確率で「よくみられる鳥」に、また福移探鳥会では6年間('92-98)で60.9%の「普通にみられる鳥」になっている。その少し前には、

探鳥地の鶴川や東米里で、また、私が探鳥していた宮島沼周辺、東野幌湿原、堀株沼（共和町）などでも記録されていた。

本種が「少なく（いなく）なった不思議な現象（減少）！？」の理由のひとつに、中国で「空の人参（シマアオジ）」が食材として乱獲されていることを、当会の新年講演会（1998年）での故小山心平さんの「シマアオジの話」や、野鳥お勉強会（2009年）の「シマアオジとの半世紀」などで知らされた。そして昨年の野鳥お勉強会の「北海道の希少鳥類を考える集い」で、何度も中国まで足を運ばれ調べられて現地を知る遠藤公男さん（動物文学者）の話をうかがうとより保全への気持ちが高ぶった。今からでも「私たちにできること」は、小山さんがつよく言っていた「地味な観察データ累積こそ野鳥保護の原点」と、遠藤さんの熱い思い「今こそ何とかしなければ、現地調査の継続を！」であろうと思ひがよぎる。シマアオジに再び会える日を願いつつ。

（江別市 富川徹）

### シマアオジの小径

今もウトナイ湖サンクチュアリには「シマアオジの小径」があります。かつて、小径を歩き、湖畔に出る手前でシマアオジのさえずりを聴く事が出来ました。バードウォッチングを始めて数年もたたない頃、ウトナイ湖へ通い、「今日もいた」と当たり前のように見ていました。その頃は何が希少種か、何が当たり前の種かがまだよく分からぬまま楽しんでいました。シマアオジも「あの場所へ行けば会える。今日も姿を見ることができた」当たり前の野鳥でした。それがいつの頃か、「今日はいなかった」が増えました。

苫小牧市の自然保護活動のシンボル鳥はアオサギだそうです。苫小牧市の東部にアオサギのコロニーがあり、コロニーの調査から始まり保護活動を行ってきた事から由来しているそうです。しかし、ウトナイ湖サンクチュアリのシンボルとしてデザインされた野鳥はアオサギではなくシマアオジでした。決めるときにシマアオジを強く押ししたボランティアの意見だったらしいのですが、アオサギの保護に取り組んだように今はシマアオジの美声をウトナイ湖周辺や勇払原野で再び聴く事が出来るには、を考えよう暗示していたのかもしれません。

（千歳市 島崎 康広）

### シブノツナイ湖のシマアオジ

シマアオジはウトナイ湖やサロベツ原野など色々な場所で見ましたが、鮮明な印象で記憶しているのはオホーツク地方のシブノツナイ湖（紋別市と湧別町にまたがる）です。海側の湖畔に広がる草地は現在でもコヨシキリ、ベニマシコ、オオジュリン、シマセンニュウなどの夏鳥が高密度で営巣しています。私が初めてここを訪れたのは2002年6月で、この年はごく狭い範囲にシマアオジが少なくとも2つがいは繁殖していたようです。近寄っても警戒するこ



2004. 6.15 シブノツナイ湖 高橋 良直さん撮影

となくさえずり続け、5mほどの距離で「撮り放題」という状態で写真が撮れました。さえずりも明瞭で「チヨチヨ フィーフィー」または「チーチーホーフーイー」のように大変のびやかに聞こえたものです。

シマアオジは同じ場所でその翌年とそのまた翌年も元気な姿を見せてくれました。ところが2005年には姿を目にすることができず、以後もシマアオジとの再会を期待して毎年6月に湖畔で車中泊しているのですが、一度も会えていません。この場所の環境は、ハマナスなどの植物の背丈が多少高くなつたくらいで、ほとんど変わっていないようです。渡って来なくなったのは何が原因なのか分かりませんが、とても残念なことだと思います。

（札幌市手稲区 高橋 良直）

### シマアオジとの出会い

私が初めてシマアオジを観たのは、1988年、今から28年まえの6月、モエレ沼の近くにある小さな草原でした。胸の黄色、頭の茶色、そのコントラストの美しさに驚き、淋しくも、もの悲しい嘆りに感動しました。それから1995年迄、7年間同じ場所で楽しんでいましたが、その頃モエレ沼公園造成工事が始まっていて、残土を積んだダンプカーの往来が日に日に激しくなり、シマアオジの営巣していた草原も埋め立てられ資材置き場になり、翌年からはシマアオジの姿を見ることは有りませんでした。

人間の自然破壊の犠牲になり営巣地を追われたものの、どこかで美しい声で轟っているのだと思っていましたが、中国で食料目的の密猟で個体数が激減したとのニュースを聞きびっくりしました。

また、あの美しい姿と声を身近で楽しみたいと願っているが、叶えられるのだろうか。

（札幌市東区 栗林 宏三）

## 聖なる鳥の島と花の浮島を巡って ヨーロッパコマドリ、セグロサバクヒタキなど130種

東海大学札幌キャンパス3年 今 堀 魁 人

今年のゴールデンウィークは世間では大型連休、そして私はちょうど礼文島へ行く用事もあり、4月30日から5月8日の期間、友人と2人で天売島は車中泊、そして礼文島では友人宅に泊まさせていただき、2島を巡ってきました。その時の鳥との出会いと感じたことを綴らせていただきます。

### ■はじめからハプニング発生

まずははじめは聖なる鳥の島天売島へ、と思いきや、30日は荒天のため船が欠航してしまい、羽幌町付近で鳥見をすることに。漁港付近にあるうっすら雪が残る畑を覗くと、50羽ほどのカシラダカとツグミの混群が餌を食べています。もしかすると天売にもたくさん渡ってきているかも、と期待に夢を膨らませ、まずは離島では見られないエゾライチョウを探しに出かけました。

複数の林道を見つけては入り、見つけては入りを繰り返していると、そこでは渡ってきたばかりのノゴマやルリビタキ、クロジなどの鳥が見られました。ですが、お目当てのエゾライチョウが出てきません。その後もマヒワやトラツグミは見つかってもエゾライチョウは姿がありません。そして探し続けること4時間、ある一つの林道に入った時、ここはエゾライチョウがいそう、という直感とともに少しずつ先へ進んでいきます。カーブを曲がった直後の道路縁に何かがいます。2羽でちょこちょことせわしなく餌を食べているようです。はやる気持ちを抑え双眼鏡で見てみるとエゾライチョウの雌雄でした！

そのまま観察していると、近づきすぎてしまっていたようで2羽はこちらに気付き、樹上へ行ってしまいました。そこで五円玉を笛にするとエゾライチョウの鳴き真似ができると以前に聞いたことがあり、実践してみました。すると本当にこちらの鳴き真似に対して鳴き返してくれたのです。エゾライチョウと会話ができるような気持ちになり、嬉しいひと時でした。

その後漁港でカモメ類を観察することに。ふと近くにいたウミネコを何気なく双眼鏡で覗くと水かきがありません。何度か話では聞いていた水かきがないカモメ類がそこにいたのです。これは写真を撮っておこうとカメラを構えると、1羽しかいないと思っていた水かきなしのウミネコが3羽と、オオセグロカモメの水かきなしの個体もいるではないですか。たまたま多かったのか、それとも何か増えた原因があるのかは不明ですが、あまり見られない鳥の異常個体をしっかりと見ることができました。観察している

と水に浮かんでもほかの鳥よりは遅いですが普通に泳いでいます。ハンディキャップを生まれながら持っていても懸命に生きているカモメたちを見て感動と勇気をもらいました。

翌日は天候にも恵まれ、ついに天売島へ向け出港とともに航路の海鳥観察開始です。ウトウが飛び交い、ケイマフリが横切りヒメウが飛ぶ中、なにか小さな鳥が遠くに2羽飛んでいます。ウミスズメ類！と思い、揺れる中シャッターを連写。数枚撮影した中で1枚だけ写っていたので一安心。識別はあとからにして、観察再開です。天売島に近づくにつれアビ類も見え始めました。遠くにシロエリオオハム夏羽！近くにアビ！と双眼鏡を覗いていると瞬間鳥が双眼鏡の中に飛び込んできました。その瞬間横で喜んでいる友人。写真を見ると綺麗なハシジロアビの夏羽です！夏羽は予想外、やっぱり航路での鳥見は侮れないと感じる瞬間でした。そしてついに初、天売島に到着です！



ケイマフリ 2016.5.1 天売島へ向かう航路上にて

### ■聖なる鳥の島 天売島

着いた時の第一印象は「小さい」でした。初めての天売島、まずは鳥見場所を見つけるところからスタートです。とりあえず車で道路を走ってみます。パークゴルフ場で小鳥を発見。見てみるとカシラダカが20羽ほどの群れで採餌しています。一通り確認し、また車で探索開始です。走っていくと道路わきに白い鳥が立っています。よく見ると綺麗な夏羽のチュウサギです！そして普段本道で見るよりも距離が近い。これが島の距離感？水場がないのに何でいるの？と疑問に思いながら後にします。

今度は裸地になった場所へたどり着きました。天売島は

ケイマフリ、ウミガラスの後にウトウが有名です。世界一の繁殖地と呼ばれるだけあり、ここから先はずっとウトウの巣だらけでした。まるで巨大もぐら叩きのようです。それを見ながらとろとろ走ると島一周の終了です。

次に森の中の探索です。でもさすが島。急に天気が崩れ雨模様に。車内観察に徹します。途中ヤナギの木の周りで鳥が動いています。見ると、ウグイスが近くにある樹洞で雨宿りをしながら花を啄んでいます。さらにもう1羽やつてきました。でも動きがとても俊敏です。そして小さい。写真で確認すると、昨年札幌で話題になったカラフトムシクイです！まさかこんなところでお目にかかるとは。証拠写真をと思ったところで後ろから車が来てしまい断念。奥へ進みます。

森の中に入ると急にルリビタキがたくさん見え始めました。あちこちで動いて鳴いています。でもそれ以外に鳥の気配がありません。とりあえず走れるところを走り、夜この森で鳥見することに。一旦森を抜け、今度は漁港に立ち寄ってみました。漁港脇の草むらを歩いていると、電柱の陰から鳥が飛び出していました。見てみると綺麗なムネアカタヒバリです！ちょろちょろしながら漁師さんの小屋の周りにいます。その後見失いお腹も空いたので鳥見場所探しはいったん中断。そして20時頃、夜の鳥見開始です。

先ほど気になっていた森に入ってみると、入り口すぐにヤマシギが道路にいたらしく、気付かず飛ばしてしまいましたが、これは幸先いいかも？とゆっくり進むと、ライトの先に何やら赤く丸い光がボツと見えるのです。双眼鏡で覗くとヨタカです！さらにその後、ライトに集まった蛾を食べ始めたのです。これには驚きです。飛んでいる姿はまるでコウモリのよう、そして翼に入っている白が閃光となり飛んだ軌跡をスッと長く残像で残していきます。ヨタカは不気味で気持ち悪いと言われますが、ただただその瞬間は美しく、たった5分の出会いでしたが素敵な出会いとなりました。

夜も更け、星が見えるところで車中泊しようと車を走らせると、急に目の前に何かが横切れます。慌てて止まり降



ムネアカタヒバリ 2016.5.1 天売島

りると満天の星空の中、流れ星とともに真横をかすめて降り注いでくるウトウ！羽音もボボッと大きな音がします。そんなウトウ流星群を眺めつつ天売島1日目は終了です。

2日目の朝は寒さで起きました。流石に冷え込みが激しく体は芯から冷え冷えです。とりあえず島を一周してみると昨日と全く鳥類相が違います。この時期は1日で鳥がガラッと入れ替わるようで、毎日ドキドキワクワクの鳥見です。この日はホオジロ類とツグミ類が一気に入り、急に森の中が賑やかになりました。カラフトムシクイは4羽ほどに増え、さらにバーダーも増え、島が人でも鳥でも賑やかです。この日はある旅館の裏庭を覗かせてもらいました。そこには300羽ほどの主にカシラダカの群れがいましたが、すぐに飛んでしまい結局何がいたのかはよくわかりません。夜にはバーダーさん達と一緒にさせてもらい、鳥談義で花を咲かせ2日目終了です。



チュウサギ 2016.5.3 天売島

天売島最終日です。まだチュウサギをきちんと観察していないかったので何を食べているのか見てみようと車内から観察していました。すると地面をチョンとつつくと、なんと大きなカナヘビを捕まえています。水辺がなくても滞在する理由はこれでした。食べるとすぐにまた捕まえるを繰り返し、夢中で餌を捕っていたからなのか約3mまで近づいてきました。目の前で見ると、餌を捕ろうと構えながら首だけ蛇のようなくねくね動きます。喉でカナヘビが暴れているのか、それとも長い喉をスルスルと通るようにそうしていたかは不明ですが、食べてからずっとくねらせっていました。その後、漁船に乗せてもらい、遠くの繁殖場所にいるウミガラスや船の近くまで近づいてくるケイマフリを観察して、天売島を後にしました。次に目指すは友人の故郷でもある花の浮島こと、礼文島です！

#### ■花の浮島、侮るなれ礼文島

着いて早々天気はあまりよくありません。とりあえず友人の実家へ向かい、その後Tさんに会いに行きました。Tさんの誘いで海岸線を走っていると何やら小鳥が道路際の岩場に1羽止まっています。車に驚き反対に飛んだところ

を双眼鏡で確認すると…。自分の脳が思考停止し、やっと動いたと思いきや、急にパニックになりました。なんと図鑑でしか見たことがないヨーロッパコマドリがいたのです！岩場をコマドリやノゴマのようにちょこまかと移動し、胸から額にかけて図鑑通りの鮮やかなオレンジに染まり、頭から背中にかけては少し茶褐色を帯びた灰色です。二人でこんなのが見られるわけがないとつい先日話していた矢先の出来事で、混乱して本物なのかも疑い、前にいるTさんを呼ぼうと手招きしても気付いてもらえず、とにかく確認写真をと急ぎますが、写真を撮るにも手は震え、ISOや露出なんてお構いなしに撮影し始めた途端、ツグミの群れがさっと横切り、次の瞬間そこにはもう姿はありませんでした。残った写真は撮影前にいろいろカメラをいじったせいで露出がおかしなことになっており、真っ白な写真とプレブレの写真のみ。ふと時計を見ると、たった1分から2分程度の出会いでした。島は本当に悔るなけれ。ましてや花の浮島だから礼文島では鳥があまり見られないと思ったら大間違い。こんな鳥もやってきます。離島は本当に何があるかわからない。そんなことをさまざまと痛感させられた出来事でした。



ヨーロッパコマドリ 2016. 5. 4 礼文島

その後も数日間あまり好天には恵まれませんでしたが、ちよろちよろと鳥見に出かけました。友人の実家横にある小さな川にはツバメの群れに混じり、コシアカツバメのペアとお腹が真っ赤で亞種アカハラツバメかもしれない個体が！すぐそこの学校のグラウンドにはアマサギが！湖には夏羽のカンムリカツブリ、アカエリカツブリ、そして20羽以上のダイサギ、チュウサギ、コサギの群れ！

畠の近くに行くと北海道ではあまり見られないジョウビタキの綺麗な雄が2羽おり、ここ礼文島でも天売島に続きカラフトムシクイが見られました。天売島で見た時にも感じたのですが、今まで見てきたムシクイ類の中では抜けて黄色みが強く、そして小さくすごく動き回るという印象でした。普段センダイムシクイなんかを見ていると、ちょこまか動いたあと一旦枝で動きが止まると私は感じている

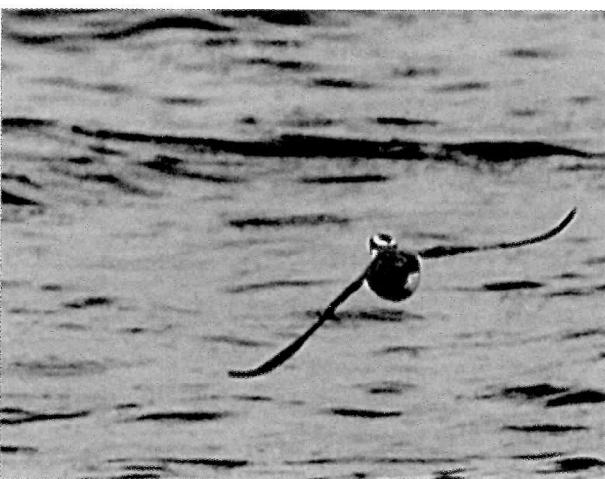
ですが、このカラフトムシクイはそんな止まるという言葉を知らないのではないか？というほどよく動き、ヤナギの花をひっきりなしに啄んでいました。さらに山側ではオオマシコがいたり、トラツグミが鳴いたり、コマドリがすぐ近くの藪で囀ったりしていました。



カラフトムシクイ 2016. 5. 5 礼文島

暴風雨の日には上空をヤツガシラが飛ばされていき、海浜草原にはシラガホオジロとシロハラホオジロの雄が1羽ずつ、そしてカシラダカが数羽身を隠しています。この暴風雨の中でも必死に渡ってきたのでしょうか。鳥たちのパッションはものすごいのです。

そして、この雨のおかげで最初の羽幌－焼尻・天売航路で見かけたウミスズメ類の正体が明らかになりました。雨が非常に強く、外に出ることができなかつたので、何気なく今回撮影した写真を見返していると、天売島に向かう途中の航路で撮影した1枚だけ写った不明ウミスズメ類の写真が出てきました。それを拡大してみると…なんと、カンムリウミスズメが2羽写っているではありませんか！日本海側にも来るとは聞いていましたが、まさか本当にいるとは思ってもいなかつたのでびっくり仰天です！



カンムリウミスズメ 2016. 5. 1  
天売島へ向かう航路上にて

そして次の日、天候が回復し、晴れていたので礼文島の南側に鳥見に行こうと車を走らせることにしました。途中で、赤褐色混じりのトケン類（カッコウ科の鳥）をみつけました。粘りましたが鳴いてはくれず、ツツドリなのか何なののかはきちんとわかりませんでしたが、脚もよく見え、普段見つけた時にはできないような観察がしっかりできました。

時間もあつという間に流れていき、帰る前日に「珍鳥が雨宿りしている」と知人に聞き、Tさんの車に乗せてもらいその場に行くと、残念ながら姿が見えません。雨の中車から降り歩いて探してみても見当たらず、諦めて車に戻ると目の前の空き家の近くでなにやら白黒の動き回っている鳥が。止まったので確認するとセグロサバクヒタキです！図鑑でしか見られないと思っていた鳥2種目です。この鳥はミミズを食べていて、地面での採餌を好んで行っています。そして雨が強くなると近くの覆道で雨宿りです。普



セグロサバクヒタキ 2016. 5. 7 礼文島

段鳥を見ていても覆道内で雨宿りをしている鳥を見たことがなく、新鮮で、こういう人工物も鳥はうまく利用しているということに気付いた瞬間でした。覆道内では、なぜか止めてあった自転車が気になるようで、ひっきりなしに自転車の周りで飛んだりつづいたりしていましたが、その行動の意図は不明です。車内で観察していると時折近くに寄ってきてくれることもあり、その際によく観察していると、羽根の具合から雄の若鳥だということがわかりました。もしかすると、好奇心旺盛で一度も見たことがない自転車にも興味を示し、自転車をどんなものなのか調べていたのかもしれません。

最終日も最後の最後まで様々な鳥を観察でき、ゴールデンウィークに確認した鳥は合わせて130種となりました。

### ■おわりに

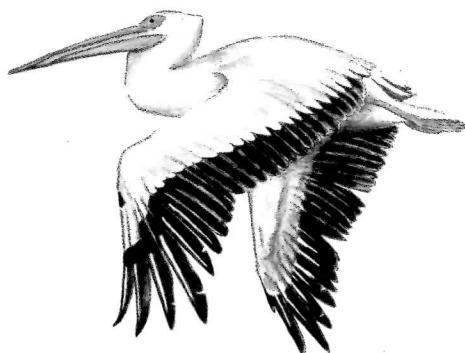
ゴールデンウィークなど、鳥の渡りの季節に訪れる離島は、毎日新しい鳥の群れが入り、さっきまでいた群れが渡っていき…と全く飽きることなく観察することができ、また、実際に体感することができました。今回130種の観察となりましたが、まだまだ探す力も識別能力も未熟な私と友人。もっと経験を積んでおられる方々が同じく観察していれば、もっと観察種は増えたことでしょう。

いろんな出会いが毎日訪れる半面、今までの当たり前が通用せず、自身の能力が問われる離島での探鳥。毎日が鳥にどっぷり浸かった、まるで海外に来ているかのような内容の濃い鳥見生活を送ることができます。島内の鳥だけではなく海上の鳥も魅力満点で、鳥だけではなく、風景もそして草花も様々なものが魅力満点な離島。ぜひ一度体感してみてはいかがでしょうか？きっと素敵なお出会いが待っているはずですよ！

## バードウォッチャーズ スケッチブック (最終回)

札幌市中央区 本間 康裕

### モモイロペリカン *Pelecanus onocrotalus*



*Pelecanus onocrotalus*

### はぐれ鳥

小さなころから遠足や旅行に行くとみんなからはぐれたり、単独行動をしてしまう人がいます。私もそういった傾向があります。2015年8月23日は北海道野鳥愛護会の石狩川河口探鳥会でした。開始時刻が迫っていて参加者の皆さんがすでに集合場所、はまなすの丘公園ヴィジターセンター駐車場に集まっているのに、ミネラルウォーターを買うために一人離れて、センターに向かいました。ご存じのようにセンターの入り口は少し高みになっており、そこから土手を越えて石狩川の川面と対岸（右岸）が見通せます。何気なく見やると、対岸に巨大な白い鳥がいました。

ペリカンのようです。しかしスコープを使ってもはつきりとしません。あわてて駐車場に戻ると、もう探鳥会開始のあいさつが始まって、探鳥の注意事項が説明されました。それにも拘わらず、気持ちは白い鳥のことばかり。

「ちょっと、ちょっと」と探鳥の代表幹事、早坂泰夫さんを呼び出して、センター前へ引き返し、再度、対岸を確認。会長(※)の小堀煌治さんと幹事の松原寛直さんにも来てもらいました。松原さんの愛機、40倍のスワロフスキーセンターにて、海外探鳥の経験がある早坂さんがモモイロペリカンだろうと判断しました。

ええっ、でも、どうして？ 国内のモモイロペリカンの記録は沖縄や石垣島など琉球諸島に限られています。北海道では1998年8月の美唄市宮島沼などで観察されていますが、これは山口県宇部市の動物園から逃げたものとされています。いわゆる「かごぬけ」というやつで、今回のも自然分布とは考えにくい。

などと、考えたり話したりしているうちに探鳥会の参加者は移動を始めて、先頭は早くも、モモイロペリカンのいる川岸とは反対の海岸のほうにむかっています。皆さんに話して方向転換してもらうべきか？ でも、この辺は百戦錬磨の小堀さんです。「いや大丈夫。探鳥会のコースを進むと、最後はモモイロペリカンがいる場所を臨むところに行くから」。

探鳥会の一行に合流して、トウネンやオジロワシを観察しても、実は気もそぞろ。「このまま進んでいって、まだモモイロペリカンはいるだろうか」そのことばかりが気がかりでした。もし飛び去っていて、最後の鳥合わせでそのことを話したら、みんなから「どうして最初に教えてくれなかつたのか」とおしかりをこうむること必定です。

でも、それは杞憂でした。河口最先端を回って進むうち、だれかが、上空を飛ぶ白い鳥を見つけました。さきほどのモモイロペリカンでした。川岸に降りてたたずむ姿は本当に大きい。手元の図鑑では翼開長（左右の翼を広げた長さ）の最大が360cmとありました。身長180cmの大人が2人、手をつないで左右に広げたくらいです。石狩に現れたものはそれほど大きくないにせよ、まあ、こんなものが空を飛ぶのか、という感じです。

そんな巨鳥が人知れず石狩まで渡ってくるはずがないという大方の予想通り、これは「かごぬけ」でした。会員のSさんが「まさか円山動物園が逃がしたんじゃないだろうな」と心配されていましたが、円山ではなく、札幌市内の私設の動物園施設から逃げ出したことが判明しました。この鳥は一時、マスコミを大いにぎわせ、石狩川河口で観察した小堀会長や、その後、むかわ町で観察した幹事の門村徳男さんが新聞、テレビの対応に追われ、大変ご苦労さまでした。むかわ町での目撃を最後に消息が分からなくなりましたが、はぐれ鳥はどこへ行ったものやら。

さて石狩川河口では私もモモイロペリカンの写真を撮ったのですが、ボケボケで、とても絵に描けるようなものではありませんでした。そこで、この絵はとある写真図鑑の

写真を模写したものです。でも、よく見ると、その撮影者は会員の新城久さんです。うわ～、無断転写、ひらにご容赦を。

### 推定無罪

シロハラトウヅクカモメ *Stercorarius longicaudus*



「シロカクロカ」というと推理小説に出てくる探偵のセリフのようですが、一般生活では白と黒を間違えることはほとんどありますまい。しかし、鳥見の世界では起こりうるのですね。

2015年8月30日の北海道野鳥愛護会の探鳥会は鶴川河口で行われました。8月ながら曇りで少し寒いぐらいの空模様。参加者が海岸を眺めていると、「クロトウヅクカモメがいます」という声が上がりました。「あそこ、あそこ」「あの流木から視線を横に動かして…」といった、まるで音声カーナビのような指示にスコープを合わせると、いました、いました。黒っぽい頭に灰色の背の鳥が砂浜に座り込んでいます。

実はトウヅクカモメは見たことがあります、それ以外のトウヅクカモメ属の鳥（漢字で書くと「盜賊鷗属」。ゾクゾクしますな）を見るのは初めてです。「どうしてあれがクロトウヅクカモメなんですか？」。思わず質問してしまいました。周囲の方の説明によると、今はとまっていて見えないが、探鳥会開催前に飛んでいるのを見たところ、トウヅクカモメではスプーン状になっている尾羽が、この鳥はそうでないこと、頭の形などからクロトウヅクカモメと判断したとのことでした。

この間、問題の鳥はほとんど動かず、一瞬、羽ばたきましたが、また座り込みました。尾羽の形状、畳んだ翼の模様などわかりません。鳥合わせでも「クロトウヅクカモメ」ということで探鳥会は終了しました。

さて、2日後、この鳥の絵を残そうと、探鳥会で撮った写真を見直しました。ほとんどが座っているもので、絵になりません。ただ1枚だけ羽ばたいたものがありましたが、ぼけています。とりあえず、その写真をもとにデッサンし、細部は図鑑で補強しようと、各種のイラスト、写真を見るうちに気になる点が出てきました。クロトウヅクカモメの写真には目の先に小さな白斑があるのですが、鶴川

のは真っ黒な顔です。また私のほけた写真でも脚が明色（灰色系）に見えますが、クロトウゾクカモメの脚は黒、シロハラトウゾクカモメの図鑑写真には灰色系に写っているものがあります。

鶴川のものは尾羽が短いのですが、シロハラトウゾクカモメは長い尾羽が特徴です。その英名を「ロング・テイルド・イエーガー」、つまり尻尾の長いイエーガー（獵師や狙撃兵、さらにはトウゾクカモメのこと）というぐらいです。ところが、長くないのもいるようで、手元の図鑑「フィールド・ガイド・バーズ・オブ・ボルネオ・スマトラ、ジャワ・バリ」（ジョン・マッキノン、カレン・フィリップス）には6枚の図のうち3枚が短い尾羽のものが描かれています。若鳥は淡色型、白色型で短いものがいて、成鳥でも短いものがいることがわかりました。

「この鳥はクロトウゾクカモメではなくシロハラトウゾクカモメではないだろうか」。そんな疑問が浮かんで、当日参加の幹事の方に問い合わせようと思いながら、北海道

野鳥愛護会のホームページを見ました。すると、探鳥会終了後、写真を見て検討したところ、翼の白色部から「シロハラトウゾクカモメと判定して訂正した」ことが掲載されていました。疑問氷解、納得しました（ただ探鳥代表幹事の早坂泰夫さんは訂正に当たって、ずいぶんご苦労なさったようです）。

あの一度だけ羽ばたいた瞬間に当日、参加していた幹事の高橋良直さんが写真を撮り、しかも、それが私のようなほけたものではなく、鮮明なものだったため判定できたそうです。その写真は「北海道野鳥だより182号」（2015年12月21日発行）に載っています。北海道野鳥愛護会ホームページからも閲覧できますので、どうぞご覧ください。

刑事裁判ではなく、トウゾクカモメ属の話でしたが、「盗賊だからクロだ」と決めつけるのではなく、「盗賊でもシロかもしれない（推定無罪）」と検討する謙虚な態度が求められるのでしょうか。（おわり）

※ 編集部注 執筆当時の役職で、本年度から顧問です。

## 書籍紹介

### 「北海道の海鳥」シリーズ1～4 千嶋 淳（著）

NPO法人工エトピリカ基金 片岡義廣

この本の著者である千嶋君に初めて会ったのは、もう20年ほど前になります。私は霧多布岬で宿をやっているのですが、高校3年の彼が鳥を見に泊まりに来ました。それも群馬から帯広畜産大学に受験に来たついでにというのだから、いかに鳥好きかが分かりました。

親しくお付き合いするようになったのは7年前からになります。私はエトピリカの調査や保全活動で、いつも岬から望遠鏡で海鳥を見ています。空気が澄んでいるときには数キロ先までの鳥でも識別が可能な時もあります。それでも遙か遠くを行き過ぎる鳥たちのほとんどはよく分かりませんでしたし、もっと先の海にもたくさんの海鳥がいるのだろうなと、いつも気になっていました。そこで霧多布沖の海鳥を調べる計画を立てたのですが、調査に参加してくれた一人が千嶋君でした。そのころには、主に十勝の海をフィールドに遊漁船を使って沖合までの海鳥の調査に熱中していました。船調査ではGPSでルートと時間を記録します。左右に一人ずつ配置した調査員が種類と羽数を確認し、中央にいる記録者が時間と共に手帳に記しています。これで後にどこに何がどれぐらいいたか分かるのです。漁師さんに「イヌイットみたい」と呼ばれた千嶋君の定位位置はいつも右側です（写真1）。でもイヌイットらしく？寒いのになぜか彼だけ軽装で裸足です。識別には望遠レンズをつけた一眼レフデジカメが多いに活躍しています。少々遠くても撮影できれば、その場で拡大してみると種類の判別が



写真1. 調査風景（右側で座っているのが千嶋君）

できるのです。ローテクで老眼の私には双眼鏡だけが頼りですが、揺れる船から千嶋君は次々と撮影し識別していきます。海鳥の群れに入った時のあの生臭い空気の匂い、それも船調査のだいご味です（写真2）。

そうした彼の豊富な実践経験や国内外の報告書など文献を読み込んだ集大成がこれらの本といえましょう。この「北海道の海鳥」は、1.ウミスズメ類①、2.ウミスズメ類②、アホウドリ類、3.ミズナギドリ類、4.アビ類の4冊にまとめられています。本をめくると、まずそれぞれの類の総論があり、分類と進化、形態、分布、生態、その類



写真2. フルマカモメの群れは特に臭い

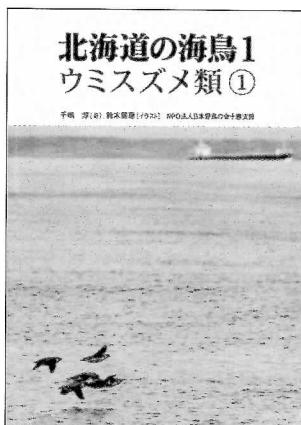
と人間、野外での見分け方、道東太平洋を例にしたその類の四季が述べられ、その類全体はどういったものなの

かを知ることができます。後半は種類ごとに、計測値、特徴、類似種との識別、鳴き声、分布と生態などが詳しく記されています。実際に読んでいただければわかりますが、図鑑などの記述とは違い実に詳しく書かれ、改めてここまでよくも調べたものと感心せずにいられない内容となっています。そして何よりも豊富な写真が素晴らしい。このシリーズは沿岸の海カモ類も含め、後4~5冊はつづく予定だということです。

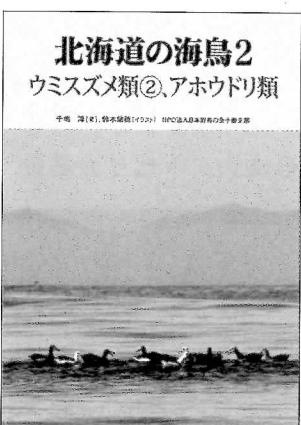
陸の鳥と違い、海の鳥を見る人はまだまだ少ないので現状です。海鳥の世界でも気候変動などで異変が見られるようになってきました。この本は「北海道」と名をうつてはいますが、海に棲む鳥たちの詳細や魅力を発信している日本では唯一の本と言えるでしょう。まずは、夜長の一冊として読んでいただきたい。きっと、海鳥に興味を持つきっかけとなることでしょう。

## 「北海道の海鳥」シリーズ1~4

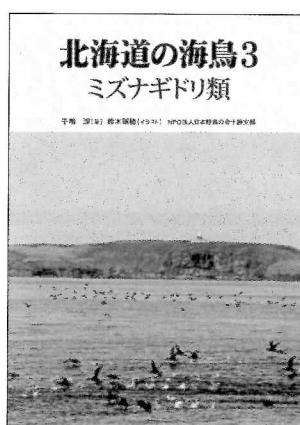
著者/千嶋 淳



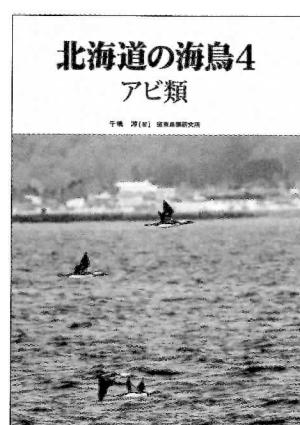
発行: NPO法人  
日本野鳥の会十勝支部  
B5版 56頁 オールカラー  
1,000円（税別）



発行: NPO法人  
日本野鳥の会十勝支部  
B5版 56頁 オールカラー  
1,000円（税別）



発行: NPO法人  
日本野鳥の会十勝支部  
B5版 56頁 オールカラー  
1,000円（税別）



発行: 道東鳥類研究所  
B5版 44頁 オールカラー  
1,400円（税別）

◇ 北海道野鳥愛護会の新年講演会は、著者の千嶋 淳氏に講演していただきました。

詳しくは、本誌16頁の ◆ 新年講演会のご案内 ◆ をご覧ください。

### 表紙の鳥

### コウノトリ

(カラー写真は<http://www.aigokai.org>に掲載)

「コウノトリが来ている」との連絡で舞鶴遊水地に出かけました。現地で顔見知りの方と会話していると、大きめの鳥がひらひらとこちらに向かってくるではありませんか。「コウノトリだ」。急いでカメラを取りに車に戻り、夢中でシャッターを切りました。この写真を友人に送ったところ「ピアノの鍵盤が飛んでいるよう・・・」との返信。改めて写真を見て、なるほど「鍵盤」と納得しました。

中正 憲信（札幌市西区）





## 旭岳宿泊探鳥会

2016. 7. 2~ 3  
札幌市南区 中村 隆

雨、雨、雨・・・、蚊、蚊、蚊・・・に悩まされた宿泊探鳥会について、以下の通りご報告申し上げます。

1日目午後から2日目午前まで雨予報の中、39名で札幌駅北口を出発、岩見沢SAで3名をピックアップ、42名全員が揃う。移動中は空も意外に明るく、ひょっとしたら・・・?と淡い期待をしながら、鳥の鳴き声当てクイズ等を楽しみながら過ごしました。途中、コート旭川CCで道産食材による美味しいランチをいただき、旭岳ロープウェイに向かいました。

ロープウェイ山麓駅出発時頃から小雨が降りだし、姿見駅到着時は風の強い本降りに・・・。2班編成で出発、第3展望台付近で数人からノゴマ!の声、幹事さんがすぐにスコープに入ってくれ、全員観察できました。その後、ギンザンマシコの鳴き声を聞くとともに2羽の飛ぶ姿が見られました。雨がさらに強くなり、最終集合時間と場所を伝え、自由行動の形をとることに・・・。最後まで姿見駅に残った人の中には2羽のカヤクグリを観察できた方もいたようで羨ましい限りです。ロープウェイ山麓駅で解散、宿に戻り、温泉入浴、夕食、懇親会(二次会)で1日目終了。

2日目は雨の中、野営場周辺の早朝探鳥会でコサメビタキ、カワラヒワ、アオジ、ベニマシコ等の姿が見られました。途中、トラツグミの声を聞けたのが良かったあ~。

朝食、休憩後に30分の時差を設けて2班編成で、クロスカントリーコースの探鳥会を実施。私はショートコースに参加、鳥の声に耳を傾けながらの植物観察を楽しみました。

ロープウェイ山麓駅レストランで人気No.1の東川町産食材を使った野菜カレー&コーヒーを食して、帰路へ。車中では日ハム大谷の「投手一番」、「初回先頭打者初球ホームラン」および「大谷7連勝、日ハム10連勝」に盛り上がる。16時30分札幌駅到着、解散。

今回、私はギンザンマシコ、カヤクグリ、ビンズイ、ホシガラス等の撮影目的で参加したのですが、成果なしに終わりました。ただ、多くの高山植物を観察できたので全体としては満足しております。企画から実施に至るまでご苦労された幹事の方々および楽しいひと時を共有していただいたご参加の皆様に感謝!! 感謝!! です。

本当にありがとうございました。

### 【記録された鳥】

7月2日-旭岳ロープウェイ姿見駅周辺、旭岳温泉周辺モズ、ハシブトガラス、ヒガラ、ウグイス、アカハラ、コマドリ、ノゴマ、カヤクグリ、キセキレイ、ハクセキレイ、ギンザンマシコ、アオジ  
以上12種

7月3日-旭岳温泉周辺、旭岳青少年野営場周辺、湿原探勝路

キジバト、ツツドリ、モズ、ハシブトガラス、キクイタダ

キ、ヒガラ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、エゾムシクイ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、トラツグミ、コマドリ、ルリビタキ、コサメビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ウソ、アオジ  
以上24種

【参加者】池端耕治、今村三枝子、大表順子、岡部良雄、岸谷美恵子、栗林宏三、河野美智子、佐々木 裕、品川睦生、島田芳郎・陽子、高橋きよ子、高橋宣子、竹内 正、立田節子、田村裕子、辻 雅司、戸津高保、中島房子、中正憲信、中村 隆、西尾京子、西川喜久世、温井日出夫・潤子、畠 正輔、濱野由美子、早坂泰夫・みどり、原 美保、樋口孝城、菱谷紀久子、廣木朋子、辺見敦子、松原寛直・敏子、村田睦子、山田登志恵、山室ゆかり、山本昌子、横山加奈子、吉田慶子  
以上42名

【担当幹事】佐々木 裕、島田芳郎、戸津高保、早坂泰夫、横山加奈子



2016. 7. 2 旭岳ロープウェイ姿見駅

## 野幌森林公園

2016. 7. 10

【記録された鳥】オシドリ、キジバト、アオバト、ツツドリ、ハイタカ、コゲラ、アカゲラ、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、ゴジュウカラ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、イカル、アオジ  
以上22種

【参加者】角野節子、川村宣子、栗林宏三、後藤義民、齊藤由美子・佑朱、嵯峨弥生、高橋利道、田中さちよ、畠 正輔、早坂泰夫、樋口孝城、辺見敦子、前田美紀枝、松原寛直・敏子、山本康裕、横山加奈子、吉田慶子 以上19名

【担当幹事】栗林宏三、後藤義民

## 石狩川河口

2016. 8. 21

当別町 新城 栄子

今年の春でした。隣家のエゾマツの近くで聞き慣れないかん高く鳴くカラス大の黒い鳥。よく見ると頭の上が赤い! さっそく図鑑で調べてみるとクマゲラという天然記念物と

分かり感激しました。

今回、新聞でたまたま目にして参加しました。はまなすの丘公園から大雨で増水した石狩川河口をぐるっと回り2時間の探鳥会。17種類の鳥を見る事ができました。前日に下見に行かれた方のお話では前日はもっと沢山いたということでした。りっぱなスコープで石狩川の対岸にいる鳥もまじかに見ることが出来て嬉しくなりました。

鳥に関する予備知識もなく、事前の準備不足を感じましたが探鳥会の皆様方のお陰で貴重な体験ができました。ありがとうございました。

【記録された鳥】オシドリ、マガモ、カルガモ、カワアイサ、ウミウ、アオサギ、イソシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、トビ、オオタカ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、カワラヒワ  
以上17種

【参加者】阿部勝利、今村三枝子、井山幸大、臼田 正、小倉史恵、小野寺まゆみ、北山政人、小谷内久江、島田芳郎、白澤昌彦、新城栄子、高橋良直、田辺英世、中正憲信、畠 正輔、早坂泰夫、美頭佳範、樋口孝城・陽子、松原寛直・敏子、横山加奈子、吉田慶子  
以上23名

【担当幹事】畠 正輔、横山加奈子

## 鶴川河口

2016. 8. 28

※ 大雨による災害で探鳥地入口の橋が流失したため、探鳥会は中止となりました。

## 野幌森林公園

2016. 9. 4

【記録された鳥】オシドリ、マガモ、カツブリ、キジバト、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、センダイムシクイ、ゴジュウカラ、コサメビタキ、キビタキ  
以上18種

【参加者】秋山洋子、今村三枝子、金子喜映・洋子、川東保憲・知子、後藤義民、小西英美枝、品川睦生、島崎康広、島田芳郎・陽子、杉田範男、辻 雅司、戸津高保、中正憲信、畠 正輔、早坂泰夫、辺見敦子、本間康裕、松原寛直・敏子、山本育子、横山加奈子、吉見孝夫・紫乃  
以上26名

【担当幹事】辻 雅司、本間康裕

## いしかり調整池

2016. 9. 11

札幌市中央区 佐藤 尚也（小学6年）

初めて北海道野鳥愛護会の探鳥会に参加しました。初参加なので、少し不安でしたが、みなさんやさしく教えてく

れ、とてもうれしかったです。探鳥会が始まると、何羽ものシギがいて、その識別が楽しくて夢中になりました。そして、シギを見ながら池の周りを歩いていくと、どこからかミサゴが飛んで来て、池の中にとまりました。みなさん大興奮でした。また、シギ類では前から見たかったキリアイがタカブシギと一緒にいて、自分で識別出来てうれしかったです。他にも、みなさんから面白い話をたくさん聞かせてもらいました。探鳥会前日にセイタカシギが入っていたという話は、ちょっと残念でした。ヨーロッパトウネンとトウネンの識別方法も教えてもらえて、次からはトウネンの群れを見つけたら、丹念に探してみたいです。探鳥会は鳥の出も良く、みなさん親切に色々な事を教えてくれて、とてもいい思い出になりました。また探鳥会に参加したいです。みなさん、ありがとうございました。

【記録された鳥】オナガガモ、シマアジ、コガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、オグロシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、タカブシギ、トウネン、キリアイ、エリマキシギ、アカエリヒレアシシギ、アジサシ、ミサゴ、トビ、ハシブトガラス、ムクドリ、ハクセキレイ、カワラヒワ  
以上21種

【参加者】阿部勝利、石神直登、今村三枝子、上坂 久・千幸、大表順子、金子喜映・洋子、川東保憲・知子、菊谷勝男・靖子、熊本進誠、栗林宏三、小谷内久江、佐々木恵子、佐藤 尚・智子・尚也・佳乃子、品川睦生、島崎康広、島田芳郎・陽子、霜村耕一、高橋きよ子、高橋貞夫、高橋良直、田辺英世、田村裕子、辻 雅司・方子、戸津高保、中川 哲・信子、畠 正輔、早坂泰夫・みどり、原美保、美頭佳範、樋口孝城・陽子、菱谷紀久子、本間康裕、松原寛直・敏子、本杉政司・朋子、山室ゆかり、横山加奈子、吉田慶子、吉本はるみ  
以上52名

【担当幹事】早坂泰夫、樋口孝城

## 宮島沼

2016. 10. 2

札幌市中央区 久保 凜太郎（小学5年）

### 大自然の迫力

2016年10月2日、マガノのねぐら立ちを見に行きました。先日参加した日本鳥学会で、宮島沼のマガノの情報を教えてもらったからです。

ぼくは午前3時に家を出て、4時30分ごろに宮島沼に着きました。車からおりてみると、満天の星空が広がっていました。そこに鳴りひびくマガノの声にぼくの胸が高なりました。

午前5時30分ごろ朝もやの中、マガノが一斉に飛びたしました。迫力があってとても幻想的で感動しました。その後、探鳥会に参加しました。参加している方々は鳥についてとてもくわしい人達ばかりだったので、ぼくにたくさんのこと教えてくれました。

めずらしいチュウヒ・シジュウカラガン・カリガネなども見つけることができたのでうれしかったです。特にカリ

ガネはマガンにとても似ていて、見つけにくいのでみんなで必死に探しました。ぼくもやつとの思いで見つけることができました。慌ててカメラを構えましたが、どこにいるか分からなくなってしまい、とりあえず何枚も写真をとりました。家に帰って確認すると、ぐうぜんカリガネが写っていて、さらにうれしくなりました。

すっきりとした青空の下で、みなさんと触れ合いながらたくさんの鳥を観察できて、とても楽しかったです。これからも色々な探鳥会に参加して、もっと鳥にくわしくなりたいと強く思いました。どうもありがとうございました。

**【記録された鳥】**ヒシクイ、マガソ、カリガネ、シジュウカラガソ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、カツブリ、アカエリカツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、チュウヒ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ムクドリ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ  
以上27種

**【参加者】**阿部勝利、阿部真美、阿部禎之、今堀魁人、今村三枝子、臼田 正、大表順子、大坪和憲・ミヤ子、金子喜映・洋子、川東保憲・知子、岸谷美恵子、北山政人、久保祐嗣・保子、凜太郎、栗林宏三、小西峰夫・美美枝、小畠俊幸、小谷内久江、佐々木恵子、篠森繁明、佐藤ひろみ、漆崎 修、品川睦生、島田芳郎・陽子、鈴木勝之、高橋貞夫・芳子、高橋良直、田中 陽・雅子、辻 雅司・方子、戸津高保・以知子、富川 徹、中川 哲・信子、中正憲信・中田勝義、畑 正輔、早坂泰夫、原 美保、藤田潔、丸島道子、山本育子、吉田慶子、吉中宏太郎・久子  
以上54名

**【担当幹事】**北山政人、佐藤ひろみ

## 野幌森林公園

2016. 10. 9

札幌市中央区 高島 均

探鳥会に初めて、家族とともに参加させていただきました。野鳥観察を今年から少しづつ始めた初心者です。

10月9日野幌森林公園の大沢口を出発点に、エゾユズリハコース、四季美コースを抜け、大沢の池に立ち寄って、大沢園地で昼食休憩ののち、桂コースから大沢口へ戻るという3時間の散策を体験しました。

初参加の私たちに、役員の方は列の先頭につくよう優し



しますので、参加者を募集します。（小樽駅からの参加も可能です）

く案内してくださったので、時折の足を止めての説明を聞きながら、楽しく過ごすことができました。

観察できた野鳥は、森の中ではシジュウカラ、ヤマガラ、ハシブトガラ、ヒガラ、アカゲラ、コゲラ、ゴジュウカラなど。大沢の池では、マガモ、コガモ、カツブリのほか、遠くの対岸で静かに羽を休めていたダイサギがとても印象的でした。メジロやキバシリも見られたそうですが、残念ながら肉眼で確認することはできず、イカルも鳴き声のみだったということです。

歳を重ねてきて、自然に触れ合えるものはないかと始めた散策。普段は札幌ドームや円山公園などを歩いていますが、やはり詳しい方と一緒にだと楽しさが違います。機会を見て、また参加させて頂ければと思います。

**【記録された鳥】**マガモ、コガモ、カツブリ、ダイサギ、トビ、コゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ゴジュウカラ、キバシリ、イカル、アオジ  
以上20種

**【参加者】**阿部勝利、井上公雄、今村三枝子、金子喜映・洋子、後藤義民、小西美美枝、篠森繁明、品川睦生、島崎康広、白澤昌彦、杉田範男、高島 均・明美、辻田捷紀、戸津高保、長尾由美子、蓮井 肇・敏恵、畑 正輔、早坂泰夫、美頭佳範、樋口孝城、菱谷紀久子、廣木朋子、藤田潔、道浦 獨、道川富美子、本杉政司・朋子、山本育子、山本康裕、横山加奈子  
以上33名

**【担当幹事】**後藤義民、道川富美子

## 野幌森林公園

2016. 11. 6

**【記録された鳥】**ノスリ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハシブトガラス、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、ツグミ、ルリビタキ、アトリ、マヒワ、ベニヒワ、ウソ、ドバト  
以上21種

**【参加者】**秋山洋子、阿部真美、栗林宏三、小西扶美枝、田中 陽・雅子、富川 徹、畑 正輔、松原寛直・敏子、本杉政司・朋子、山本育子、山本康裕、横山加奈子  
以上15名

**【担当幹事】**田中 陽、富川 徹

集合場所・時間：札幌駅北口（中央）「鐘の広場」8:00  
(小樽駅前からの乗車9:20頃)

帰着時間：16:00頃 (小樽駅前での降車14:40頃)

定 員：45名

参 加 費：2,000円

申込先：畑 幹事

1月5日(木)から8日(日)の毎日9:00～20:00まで  
電話・E-mailにて受け付けます。

(乗降場所を指定してください。E-mailの場合、電話番号も明記願います)  
なお、定員になり次第締め切ります。

電話 011-894-0017  
E-mail : hata2002@lapis.plala.or.jp  
その他  
・小樽駅で小休止してから探鳥コースに入ります。  
・フェリーターミナルで昼食をとります。  
・往復とも小樽駅以外の途中乗車・下車はできません。

#### 【野幌森林公園】2017年2月5日(日)

冬の野幌森林公園を雪を踏みしめながら、ツグミ、アトリ、マヒワなどの冬鳥、キツツキ類、カラ類などを観察します。12時頃に大沢口に戻り、鳥合わせ、解散となります。

昼食はふれあい交流館でとることができます。

集 合：野幌森林公園大沢口 9:00  
交 通：夕鉄バス 新札幌駅発（文京台南町行）  
「大沢公園入口」下車 徒歩5分  
JRバス 新札幌駅発（文京台循環線）  
「文京台南町」下車 徒歩5分

#### 【円山公園】2017年3月5日(日)

春の訪れを迎えた円山公園内でキツツキ類、カラ類に加え、ツグミ、マヒワ、ウソ、シメなどを観察します。

午前中で解散の予定です。（昼食は不要です）  
集 合：円山公園管理事務所前 9:00  
交 通：地下鉄東西線「円山公園」下車 徒歩8分

#### 【ウトナイ湖】2017年3月19日(日)

南で冬を過ごしたガン・カモ類がこの時期北の繁殖地に渡り始めます。渡り鳥の中継地であるウトナイ湖で多くのガン・カモ類、オオワシ、オジロワシなどを観察します。湖岸をネイチャーセンターまで歩きます。正午頃にセンター内で鳥合わせをし、解散となりますが、同じ場所で昼食をとることができます。

集 合：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター前 9:30  
交 通：道南バス 新千歳空港発（苫小牧行）  
「ウトナイ湖」下車 徒歩5分

- ☆ いずれの探鳥会も悪天候でない限り実施します。
- ☆ 昼食、観察用具、筆記具などをご持参ください。
- ☆ 問い合わせ先：北海道自然保護協会 ☎011-251-5465  
10:00~16:00（土・日、祝日を除く）

## 鳥民だより

### ◆新年講演会のご案内◆

・日 時 2017年1月14日(土)13:30~16:30  
・場 所 札幌エルプラザ 4階 大研修室  
札幌市北区北8条西3丁目 (011-728-1222)  
札幌駅北口から徒歩3分  
・講 師 千嶋 淳氏 (NPO法人日本野鳥の会十勝支部)  
・題 名 魅惑の探鳥地・十勝～水鳥と海鳥を中心に  
・講演内容 探鳥地としての十勝の存在感は薄いかもしれません。しかし多様な環境が凝縮され、鳥の多さには目を見張るものがあります。中でも十勝川下流域には春秋に数千羽の亜種オオヒシクイやマガムが渡来し、近年では3桁を超えたハクガン、シジュウカラガンも交えた乱舞は圧巻です。タンチョウやワシ類も普通で、珍鳥の記録も少なくありません。帯広市街地でも亜種シマエナガやコアカゲラを観察でき、出張、観光ついでの鳥見も楽しめます。沖に目を向ければ春から夏はアホウドリ類、ミズナギドリ類、秋冬はウミスズメ類を中心に世界中から様々な海鳥が飛来します。そんな魅力の一端を紹介してもらいます。

なお、本誌11~12ページで紹介した「北海道の海鳥」シリーズは、当日の講演会場で入手できますが、「道東鳥類研究所ネットショップ」(<http://store.shopping.yahoo.co.jp/doutouchoken/>)でも購入することができます。

### ・野鳥写真上映会（講演終了後、15:00頃から）

会員の皆様が撮影された写真を上映します。映写時間を調整するため、映写を希望される方は事前に連絡をお願いします。

連絡先：高橋幹事 (brb32264@nifty.com)  
当日、写真をUSBメモリ等にコピーしてお越し下さい。  
・参加費 500円  
・懇親会 新年講演会終了後、「ユック」（札幌市中央区北1条西5丁目興銀ビル地下1階）で行います。会費は3,500円程度です。参加自由で、事前申し込みは不要です。

### ◆ホームページの一部リニューアル◆

2016年12月1日からホームページの一部をリニューアルしました。トップページに「お知らせ」コーナーを新設し、イベント情報等を分かり易くしました。

#### 【新しく会員になられた方々】

佐藤 尚・智子・尚也・佳乃子（札幌市中央区）

[ 北海道野鳥愛護会 ] 年会費 個人 2,000 円、家族 3,000 円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・六階 北海道自然保護協会 気付 ☎(011) 251-5465

HPのアドレス <http://www.aigokai.org>